

令和3年度第3回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和3年6月16日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 応接室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児病態学 教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)  
オブザーバー: 小山 静代(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)  
事務局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)  
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)  
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)  
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○梅毒について

(事務局から)

2021年の梅毒罹患女性の報告数(第21週まで)が、前年、前々年と比較して減少している。その背景を調査するため、罹患数の経年での推移を、性風俗産業従事歴の有無及び不明に3区分してグラフ化した。その結果、2021年に報告された罹患者は全て無症候であり、その診断契機は定期健診と推察された。一方、2021年に有症の罹患者が減少した背景としては、新型コロナウイルス感染症による受診控え、あるいは社会の行動変容に伴う性感染症の抑制などが可能性として考えられた。これらのことについてご意見をいただきたい。

(委員から)

・近年若者への性感染症の拡大が問題となっており、その感染予防をどのように啓発するかについて、以前この部会でも取り上げた。今回女性の感染者が大幅に減少したが、その背景が分かれば、啓発対象および方法も明確になってくると思う。

・受診控えについては2020年にはあったかもしれないが、2021年現在はそれほど無いと思う。

・2020年以前の罹患者について、定期健診以外の無症候罹患者の診断契機は何だろうか？

(事務局から)

・妊娠時の検査が数名含まれていました。その他については、明確な情報はありません。

(委員から)

・今回従事歴の有無で分けしているが、さらに有症あるいは無症候で分けすれば、傾向がもう少し明確になるかもしれない。

#### ○RSウイルス感染症について

5月中旬以降、同感染症が岐阜県内で非常に流行している。今回の流行の特徴は罹患者数が多いこと(第21週の岐阜県全体の定点当たりの報告数は4.68と2006年の統計収集開始以降の最高値)、また流行時期が例年よりも早いこと(過去の流行時期は秋から冬にかけて)が挙げられる。保健環境研究所では「ぎふ感染症かわら版」を発行して注意喚起を行っているが、今回の状況について提供すべき情報等があればご検討いただきたい。

(委員から)

・岐阜市内では満床の病院もいくつか出ているため、実際の医療現場では統計データの2倍以上の罹患者が出ているように思う。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年はRSウイルス感染症の流行はみられなかった。そのことが罹患者数の増加、あるいは流行時期の早まりを起こした要因と考えられる。

・今回の流行では急速に罹患者の数が増えたが、減少も急速に起こるのだろうか。

・九州においては今年度当初あたりから同感染症の流行が拡大しているが、未だに報告数が下がりきっていない。そのため今回の流行は長引くこともありうるかもしれない。

#### 【情報提供すべき事項】

・前年との比較による報告数の増加について

#### 【その他(感染症対策推進課から)】

・感染症法に基づく届出基準等の一部改正について